

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|
| 本校の教育テーマ「環境教育」「国際理解教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する | <p>■ICTの活用や公開授業の回数を増やして授業改善に努めた。ICT活用は生徒の学習意欲を刺激しているが、家庭学習の時間数の増加にはつながっていない。生徒の学習意欲向上につながる授業改善を進める必要がある。</p> <p>■国公立大学の合格状況は少し改善したが、所謂中堅の私立大学の合格状況は厳しい結果であった。入学時から学習習慣の定着の指導に力を入れ、学力向上を図る必要がある。就職は100%の内定を得ることができた。</p> <p>■「環境教育」「国際理解教育」「表現活動」の関連性を高めた取組を「総合的な学習の時間」を使って実施することができた。生徒の生活委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページ、毎月のお知らせマガジンの発行により積極的に展開できた。学校説明会も在校生のプレゼン等により中学生に親近感を持たせることができた。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、部集いを定期的に開いて人間性と社会性の育成、目標に向け努力する気持ちを大事にする指導に努めた。</p> <p>■京都府自転車安全利用推進員は取組3年で800人を超える生徒が受講し、京都府より「自転車安全利用取組優良モデル校」の認定を受け、鍵1グランプリにおいても第1位の表彰を受けることができたが、自転車の安全運転については継続してさら注意喚起を図る必要がある。</p> | <p>【目標】 希望進路が実現できるよう学力を向上させる。特別活動と部活動の充実を図ることで自主性と社会性、規範意識を養う。地域の学校として愛され信頼される学校づくりを行い、3つの教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を充実させる。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)新学習指導要領の改訂ポイントを踏まえ、各教科で「何ができるようになるか」を明確化し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究と実践を行う。 (2)教員相互の授業参観を行うことで資質能力の向上を図るとともに生徒の学力向上につなげる。 (3)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。</p> <p>2 進路指導と生徒指導 (1)希望進路の実現に向け、一人ひとりに応じたキャリア教育を推進する。 (2)北稜祭等の活動を通して生徒の自主性を養う。 (3)挨拶や身だしなみ、言葉遣いの指導に力を入れ規範意識を醸成する。</p> <p>3 部活動指導 (1)学習と部活動を両立させる指導に力を入れる。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。</p> <p>4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が現実的な地域により分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。</p> <p>5 地域との連携 (1)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p> |

| 評価領域(分掌領域) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 評価 | | 進捗状況(成果と課題) | |
|---------------------|--|--|--|---|----|---|--|
| | | | | 項目 | 総合 | | |
| 教育課程 学習指導 | 本校の経営方針に基づいた教育課程を検証する | 「学校経営計画」「学校経営の方針」を踏まえ、平成30年度入学生教育課程を検証しながら、新学習指導要領改正に沿ったコース編成・教育課程の研究・提案を行う。 | 教科主任会議、研修会を通して本校の直面する現状を周知し、教育課程やコース編成について提案できたか。 | A | A | 32年度入学生の教育課程について、活性化検討会議の場で検討を重ね、原案作成に至った。6クラス編成を想定し、コースの再編を含めた大きな変更であるため、慎重に各教科の意見を集約しながら細部の調整を行っている。年度内に決定案をとりまとめ、来年度の説明会等における広報に備えた。 | |
| | 学力向上に向けた授業改善と基礎学力充実を図る | 授業参観・公開授業・研究授業を実施し、授業を客観的に見直す契機とするとともに、年2回授業評価を実施して授業改善につなげる。 | 授業参観・公開授業・研究授業を実施し、多くの保護者・関係者・教員が参加した。その後、教科会議等を利用して合評会を行い授業改善につなげられたか。 | 授業による評価アンケートの結果が授業改善の資料として有効に機能したか。 | B | B | 5月8日に中学校関係者および保護者対象の授業参観を行った。参観者の数は例年並みであったが、保護者の参観者数が伸び、日程等を含めた実施方法の検討が必要である。公開授業は6月4日～8日の日程で行い交流の機会となった。今後とも授業改善への契機として活発に交流できるムードを盛り上げていきたい。研究授業は11月5日から2週間で行われ、授業改善のための貴重な研修となった。今後も継続して行い、新たなチャレンジへの契機としていきたい。 |
| | | よりよい学習環境を維持するよう、教科担当と担任が密にコミュニケーションをとりながら組織的に指導を行えるように、シラバスの改善や研修を通して個々の教員が持つ知識や経験を共有できる環境を整備する。 | 授業態度等調査及び欠課過多生徒の報告が教科担当と担任をつなぐ資料として機能し指導に活用できたか。 | シラバスが教科指導のツールとして機能し、生徒の計画的な学習習慣の定着や到達目標に対する意識を喚起できたか。 | B | B | 各教科担当が作成したシラバスを1時間目の授業で配付し、オリエンテーションを行った。今年度は1年生で新様式によるシラバスを作成したが、来年度は1・2年生で同様の形式によるシラバスを配付する予定である。さらに有効に活用できるよう、各教科からの意見を集約しながらよりよいものとしていきたい。また、今年度は各教科で作成した基本ブルーブックを配付し、パフォーマンス評価についての生徒・保護者に対する説明を強化する試みを行った。今後、さらに各教科で研究してより現実的なものと深化させていきたい。また、評価内容をどのように通知するかを合わせて研究課題としていきたい。 |
| | | 考査前補充および成績不振者に対する長期休業前の一斉指導を実施し、学習方法を含めた基礎学力の充実を図り、進級・卒業に向けた自覚を促す。 | 考査前補充および成績不振者に対する長期休業前の一斉指導を実施し、学習方法を含めた基礎学力の充実を図り、進級・卒業に向けた自覚を促す。 | 学期ごとの成績不振者数を前年度に比べて減少させることができたか。 | C | C | 今年度は教務部としての研修会は行っていない。今後の、新学習指導要領に関わる来年度の教育課程に関するテーマについて行う予定である。 |
| | | 国際交流に取組むを充実させる | マレーシア研修旅行での研修内容をより充実させる。 | 各教科で事前学習に取り組むことができたか。事前学習の内容を実際の行程に即したものであったか。 | A | A | 2学期から授業やLHR、講演会等で事前学習に取り組んだ。授業では、英語科による会話練習、地歴公民科によるマレーシアの地理や歴史の学習、理科による環境学習等を行った。また、マレーシア政府観光局の方によるマレーシアの歴史や生活、文化、マレー語についての講演会も実施した。生徒は、交流校で行うプレゼンテーションやパフォーマンスについても非常に積極的に取り組んだ。また現地では、それらの事前学習を活かし学校交流やB&Sホームドジャットなどで積極的に交流し、行く前に不安を感じていた生徒も海外への関心を高め視野を広げることができた。一部にルールやマナーを守れない生徒がいたことは今後の事前学習の課題である。 |
| 特色推進 広報活動 | 環境教育に生徒が主体的に取り組める内容にする | 環境保護活動や環境学習に生徒が主体的に取り組む、思考力や表現力を高められるようにする。 | 総合的な学習の時間に実施する「地球環境学の扉」を系統的に魅力的な内容にできたか。生徒が、学んだことを理解・分析・討論し成果を発表するなど、思考力や表現力を高める取り組みができたか。 | A | A | この1年間で、マレーシアでマレーシア姉妹校の生徒35名と本校生約150名、おもてなしツアーでタイの生徒14名と本校生42名、ロシア生徒47名と本校生40名、香港生徒22名と本校1年生全員、が交流した。その中で校内の環境への取り組みを紹介したり、紙芝居を体験したり、学校周辺を案内したりした。国際交流委員数名が来賓を学び、ロシアの先生方におもてなしをするという新しい試みは好評であった。今後できるだけ多くの生徒が交流に参加できるように工夫していくこと、また、全校行事としての体勢を整えて実施することが必要である。 | |
| | 広報活動を充実させる | 学校説明会等を通して、学校全体として学力向上に取り組んでいることを紹介する。 | 学校説明会の生徒発表、日常の学習習慣の大切さや学びの面白さを伝えるよう工夫できたか。 | A | A | 生徒発表を多く取り入れ、それぞれ北稜高校の魅力や中学生に語りかける内容とした。とくに、学習と部活動を両立する上での努力や工夫、好きな教科・科目の面白さを生徒自らの言葉で述べられるようになっている。今後、発表生徒については、1年生も含めコースや文系・理系、部活動等、バランス良く選考していきたい。 | |
| | 今年度の前期をめぐり、Webページを全面改定する。 | 北稜高校の魅力発信するため、最新の取り組みがトップページから閲覧できるよう工夫できたか。また、閲覧者が知りたい情報にアクセスしやすい項目をわかりやすく整理できたか。 | 北稜高校の魅力発信するため、最新の取り組みがトップページから閲覧できるよう工夫できたか。また、閲覧者が知りたい情報にアクセスしやすい項目をわかりやすく整理できたか。 | B | B | 更新が相当遅れたが、3月からようやく新しいWebページで運用を始めている。新しい取り組みを写真等で見やすくレイアウトするなどの工夫をした。今後、内容をさらに充実させるとともに、より迅速な更新を目指したい。 | |
| 生徒指導 | 安心・安全な学校作りをする | 教職員による年間7回の交通安全指導を実施する。また部活動員で構成された自転車安全利用推進員による自転車通学指導を年20回以上行う。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させるとともに校内巡回を行う。いじめを許さない体制を確立する。 | 教職員による年間7回の交通安全指導が実施できたか。部活動員による自転車通学指導を実施できたか。1年生の交通安全学習が実施できたか。 | A | A | 教職員・部活動員による交通安全指導は計画的に実施できた。生徒の交通安全指導は悪天候のため7回中止となったが、それ以外は計画的に実施できた。新入生向けの交通安全学習も計画通り実施できた。鍵1グランプリにおいて2連覇を達成し、生徒の防犯意識の向上に一役を買ったことができた。 | |
| | 主体的活動の活性化を図る | 生徒会活動・各委員会活動などの生徒の主体的な活動を指導し活性化させる。 | 生徒会・各委員会の年間の活動をより高い意識で取り組ませることができたか。 | B | B | 新1年生が前期生徒会本部に大勢参加し、後期生徒会本部はすべて1年生となった。高い意識を持っているが経験不足でもあり、今後の成長に期待したい。選挙管理委員会では立会演説会から投票まで生徒会役員選挙を実際の投票に近い形で進めた。体育委員会は体育祭中の携帯電話等の使用について、自分たちでルールを作りそれを守るように体育委員会として全生徒へ訴え、働きかけをした。生活委員会では自転車の駐輪指導以外に挨拶運動を展開した。 | |
| | 社会性・規範意識を育成する | 身だしなみ指導及び遅刻指導の徹底を図り、また携帯電話の適切な使用ルールを身につけさせることで基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を促す。 | 制服の正しい着用が定着したか。髪型・装飾品等の指導を徹底して行うことができたか。朝の校門遅刻指導で遅刻生徒の状況が改善されたか。校内での携帯電話によるゲーム、歩きスマホをやめさせられるよう指導できたか。 | B | B | 学期初めの服装指導に大きな混乱は生じなかった。朝の校門遅刻指導状況は昨年度同様、ほぼ特定の生徒の指導にとどまっているが、現状として指導数は多い。それでも始業時のチャイムで校門へ駆け出す生徒はほぼ皆無となった。携帯電話の違反について今年度から指導方法を改めたが、指導件数は昨年度を超えており、特に1年生が目立つ。中には繰り返し指導を受けている生徒も見られるが、3度目の指導を受けた者はいない。校内でのゲームや必要のないスマホ利用、歩きスマホについては新たな手立が必要である。 | |
| | 高大接続改革に対応する | 全教科において学力の3要素を伸ばさせる授業を展開する。学びの過程をポートフォリオに記録させる。大学入学共通テストや英語の外部検定試験などの情報を収集する。 | 教科会議や職員会議で高大接続改革に関して研究をし、授業の実践ができたか。 | B | B | 大学入学共通テストやポートフォリオに関する研修会を定期的に職員会議等で行った。1年生の学力向上のための研修会も実施した。各教科で授業改善に取り組むことができ、今後も研究が必要である。 | |
| 進路指導 | 学力向上のための取り組みを行う | 学年部と連携して、学習時間調査を定期的に行う。考査前だけでなく、平常時の家庭学習の習慣を定着させる。全学年に対して自習室の利用を促す。補習・土曜講座、学習会、模試の積極的な活用を促す。教科会議と協力して、模擬試験の事前指導・分析を行う。 | 平常時の自学自習時間が1・2年生で2時間、3年生は3時間行っているか。補習・土曜講座の出席率が90%を超えているか。学習会・模試の参加者満足度が90%を超えたか。模擬試験の分析会を定期的に行なったか。 | C | B | 平日の学習時間は1年生83分・65分、2年生62分・59分、3年生92分(4月・11月調査)であった。土曜講座の出席率は1年SA講座で90%程度、その他の講座で50%程度であり、平常補習の出席率は70%程度であった。学習会・模試のアンケートでは全ての質問項目において肯定的な意見・評価が90%を超えた。模擬試験の分析は教科会議に依頼をし、成績の向上が見られる教科もあった。 | |
| | キャリア教育を推進し、希望進路を実現させる | 社会生活に必要な力を身につけさせ、進路や生き方について考えを深めさせる。担任と進路指導部で協力して進路学習を行う。進路通信等の発行を通して、進路情報の提供を行う。 | 全教員が日常的にキャリア教育を意識した指導を行えたか。各学年年間3回以上の進路学習を行い、生徒満足度が80%以上か。進路通信を毎月発行できたか。国公立大学と関係立の合格者数40名以上、産近甲龍合格者数100名以上、学校紹介による就職率100%。 | B | B | 今年度よりキャリア教育実践セルフチェックをリニューアルし、キャリア教育の観点を持って指導に当たっている。進路学習の内容も例年よりも一層充実したものにしている。進路通信は学期に複数回発行できている。就職は民間企業・公務員ともに第一希望達成率100%である。進学の最終結果はまだであるが、産近甲龍の合格者は延べで100名に達した。国公立開関立で23名出ている。 | |
| | 健康実態の把握と生徒への援助 | 健康診断、保健室来室状況など各種情報をもとに、生徒の心身の健康状態を把握し、サポートする。 | 各種の情報を活用し、気になる生徒の心身の健康を早期にサポートできたか。 | A | A | 心身の健康課題を有する生徒について、早期から担任・各分掌と連携を取り、サポート並びに解決に努めた。 | |
| 学校保健 学校教育 | 効果的な特別支援教育体制を確立する | 特別支援の観点から支援が必要と思われる生徒に対して実態把握を作成し、校内で情報を共有するとともに、学年特任担当と特別支援教育コーディネーターによるケース会議を定期的開催し、適切な支援・指導につなげる。 | 個別実態把握による校内での情報の共有化し、個々の生徒の指導に活用を図ることができたか。 | B | B | 実態把握への記入については昨年度よりは浸透してきたように思われる。今後は、さらなる活用を促すとともに具体的な支援策について取り組んでいきたい。また、コーディネーターと学年担当者によるケース会議の定例化を図り、より一層生徒の状況把握に努めたい。 | |
| | 校内美化・安全点検の推進 | 各学期に設定した美化週を定着させ校内の美化を推進し、教育環境の整備・改善に努めるとともに、生徒の保健委員会・生活委員会共同でゴミの減量に取り組む。 | 校内美化の推進とゴミの分別・減量を生徒の委員会活動で行うことができたか。 | B | B | 各学期に美化週を設定し、保健委員から校内美化についての啓発を行うことが出来た。また、生活委員会の協力も得て、ゴミの分別状況調査を実施し、分別には一定成果が現れていると感じる。今後は、減量について進めたい。 | |
| | 知的好奇心を引き出すことに努める | 生徒の興味・関心を広げるように多様な分野の資料を備え、ニュースの発行をはじめその他のさらなる働きかけを行い、利用の増加を図る。 | 生徒の一人あたりの貸し出し冊数や図書館を利用する生徒の割合を増やすことができたか。 | B | B | こ数年一人あたりの貸し出し冊数は減少傾向にあったが、今年度は昨年度並みであり、減少傾向をとどめることはできた。 | |
| 読書指導 視聴覚教育 | 課題解決型学習の展開に寄与する | 各教科の学習に必要な情報・資料の提供に努め、図書館と各教科の学習活動との一層の連携を図る。 | 授業での使用機会が増加したかどうか。特別な特集コーナーの設置が増加したかどうか。 | A | B | 授業での利用は近年増加傾向にあり、今年度は昨年度並みであった。教員の資料の要望や資料に関する相談は増加し、それに応えることもできた。 | |
| | 生徒の自主活動を推進する | 図書委員会活動をさらに推し進め、生徒が自ら主体的に取り組むことができるようになるため指導を充実させる。 | 図書委員が企画・運営に携わり活動内容を充実させることができたかどうか。 | B | B | 図書委員の役員は意欲をもって取り組むことができた。委員の活動実績は昨年同様であった。 | |
| 教育環境 整備 | 安心・安全な教育環境整備の推進及び充実 | 施設・設備の整備を推進し、課題解決を図る。 | 教育環境の整備が図れたか。予算の有効活用が図れたか。 | A | A | 要望に応じた設備の整備に取組み、環境を整えることができ、予算の有効活用ができた。 | |
| 学校関係者 評価委員会による評価 | 生徒のスマートフォン・SNSに対するモラルが低下しており危機的な状況となっている。また長時間の使用により家庭学習時間が減少傾向にあるというマイナス要因も指摘されており、両方の観点から生徒のスマホ使用について家庭と連携を強く指導していく必要がある。18歳が成人となり、これまで以上にコミュニケーション力・ディベート力が必要となってくる状況のもと、成人として生きていくことがいかに大変かを徹底して教えていくとともに、生徒に生活力をつけてやる必要がある。 | | | | | | |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 近地域との連携を強めつつあるが、次年度コミュニティスクールをめざす点を踏まえ、これまで以上に地域連携を強化し学校運営の要と位置付ける。保護者が家庭学習時間を増やすためにどのような取組を求めているのか分析するとともに、家庭学習について保護者と協働できる仕組みを考えていく。 | | | | | | |